

直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス
共育コラム

失敗に学び、失敗を生かす



子どもの成長、発達において、乳幼児期が重要ということは、各専門分野の共通の見解です。特に、信頼できるおとなとの愛着形成が重要と言われています。信頼できるおとなとは、通常、親であることが多いですが、いろいろな事情で親にできないこともあります。その場合は、子どもが最も信頼できるおとな（保育士や教師、ほか）との愛着形成ができれば、子どもはしっかり育っていくと言われています。学童期に、まわりとのコミュニケーションがうまくいかず、トラブルを起こしやすい子がいますが、課題に気づいたそのときからでも、信頼できるおとなとの愛着が形成されていくと、子どもは必ず変化、成長すると言われています。

子ども時代に失敗やまちがいはつきものです。むしろその経験を積んでおくことが重要ともいえます。ただし、その失敗やまちがいを放置したままでは、その経験は生きません。また同じような失敗を繰り返すことになるし、それが重なれば、大きな傷になったり、その傷が残り続けてしまったりすることもあります。

大切なことは、失敗したとき、まちがったとき、何が失敗だったのか、なぜそんな失敗をしてしまったのか、何をまちがったのか、なぜまちがったのか、そこを確かめることが必要です。「確かめる」というのは、つまり「聴く」ということです。どんな失敗であろうと、まちがいでであろうと、まずは「聴く」ということが大事です。このかかわり方がとても重要です。子ども自身が「失敗」「まちがい」と認識してないことが多く、それを「認識」させることから始めなければなりません。本人が「失敗」「まちがい」を受けとめることで、自分をふりかえることができます。そのふりかえりのなかで、なぜそのような失敗、まちがいになったのかをひも解くこととなりますが、そのときサポートが必要になります。親子でもこのようなかかわりが望ましいと思いますが、親子の関係では、難しいときもあります。そのような時には、信頼できる第三者の立場の人に頼るのも一つの方法だと思います。

小学生の場合、とりわけ低中学年の子は、それを自分だけの力でふりかえり、問題に気づき、課題を整理するのは難しいです。ひも解くことを促してくれる人、いっしょに考えて問題を浮き彫りにしてくれる人、課題を明らかにし課題解決のための示唆を与えてくれる人、が必要です。そのことによって、失敗やまちがいが学習に置き換わります。この学習への置き換えをサポートしてくれる人と対話を重ねていく過程において、信頼できるおとなとの愛着が形成され、子どもは成長していくことができます。

直方クラブで大切に語り継ぐ、ある子（先輩）のメッセージ・・・

「声かけ」「聴く」ことの大切さは、キャプテンを中心に、特に6年生には伝えていきます。6年生も、自分が低中学年だった頃、いろいろな失敗を重ねてきており、そのことの自覚もあります。今なお、失敗に格闘している子もいます。それだけに、今の下級生のなかに、セルフコントロールがうまくいかず、失敗を重ねている子がいることも、そして、その子の気もちもわかるのだと思います。根気強く接してくれています。このことは、直方クラブの毎年の6年生が受け継いでくれています。時折示していますが、このことの大切さをことばで表現してくれた子（先輩）がいます。この子からのメッセージ、大切に語り継いでいます。

自分も以前は、いやなことから逃げて、みんなに迷惑ばかりかけてきた。自分は心が弱いところがあって、すぐはらかいたり、あきらめたりすることがあって…。

でも、自分には大好きなものがあって、それがバスケットだった。このままだったら、大好きなバスケットができんようになる、変わらないけんと思った。

でも、思ったからと言って、そう簡単に変わるものじゃない。時間はかかったし、今も完璧じゃないけど、ようやく今の自分にまでなれてきた。

それは、この間、ずっと自分を応援し見守ってくれた人がいたからで、自分一人の力では変われなかった。それに、あの頃の自分だったら、普通はみんな、かかわらんごしようと思うと思うけど、でも自分を見捨てずにかかわってくれた友だちや先生がいてくれた。だから変わってこれた。

自分一人ではなんともならんときもある。そんなときは、自分一人でなんとかしようと思わんで、だれかにたよったらいい。自分たちにたよってくれてもいい。できることは、自分たちもするから…。

ただ、ずっとたよりっぱなしではだめで、自分も努力しようとするのが大事。それは忘れんで…。

人は自分一人では変われんけど、支えてくれる人、応援してくれる人、かかわってくれる人がいたら、必ず変わる。だから、自分を支えてくれる、応援してくれる、かかわってくれる、その人たちを大切にしないといけない。

人は必ず変わる（成長する）ことができる。

